



2004年3月期連結決算内容

株式会社 ニチレイ

2004年5月7日

お問合せ先:

財務・IR広報部 (IR広報担当) マネジャー
柳沢 健二

TEL: 03 - 3248 - 2235

E - mail: yanagisawak@nichirei.co.jp

URL: <http://www.nichirei.co.jp/ir>



04 / 3 は水産と低温物流の不調で減収減益

2004年3月期の連結業績

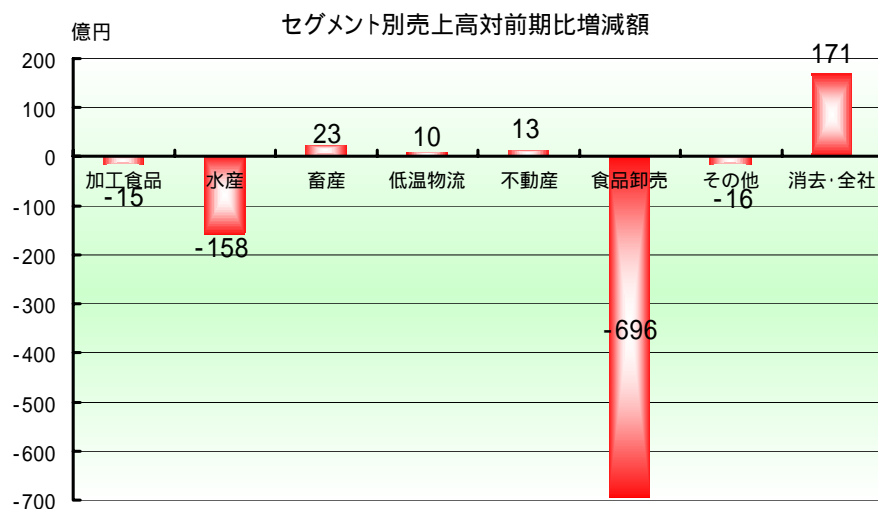
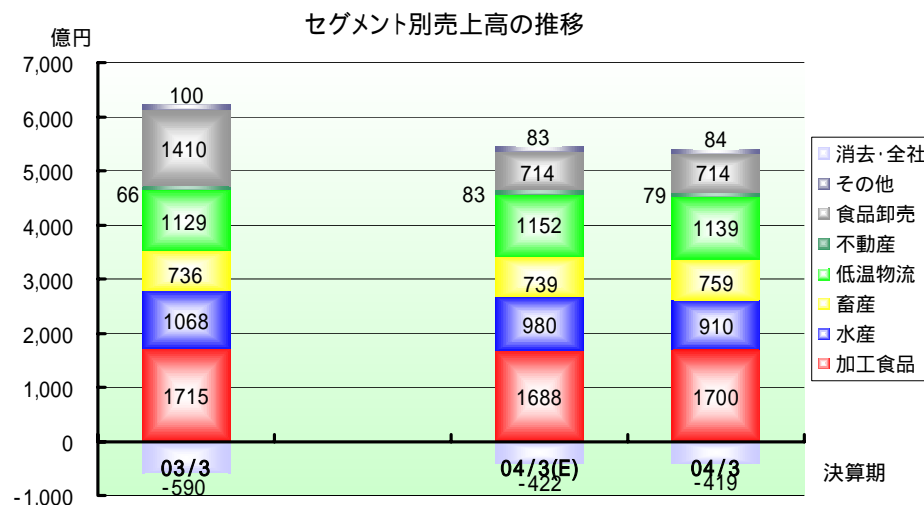
単位:金額 = 億円(未満切捨て)	03/3	04/3(E)	04/3	04/3対03/3比較	
				増減額	増減率
売上高	5,634	5,017	4,966	-668	-11.9%
営業利益	182	137	139	-42	-23.5%
経常利益	162	115	120	-41	-25.7%
当期純利益(損失)	52	56	-18	-71	-

- 売上高** 04 / 3 (E)・・・2004年3月期見込・・・は2月3日に発表したもの
 低温物流と畜産は増収だが、03 / 10から連結除外のユキワの影響額603億円減に加え、漁獲減などで主力商材の取り扱いを絞った水産が落ち込み大きく減収に。
- 営業利益**
 加工食品は調理冷食の売上が堅調だったが、ブランド費用に加え原料コスト増も響いて減益。
 水産は取り扱いの減少により、固定費を賄えず営業赤字に。
 畜産は急変する市場環境のなか「こだわり畜産素材」の取り扱いを伸ばして増益に。
 低温物流は保管型で在庫や在庫の減少が続き減益に。
- 経常利益**
 金融収支は03 / 3比2億円改善。
- 当期純利益(損失)**
 投資有価証券評価損・売却損が03 / 3比大きく減少の一方、子会社の日冷商事が所有していた京都ホテルに賃貸する土地・建物の売却で固定資産売却損144億円が発生、当期は最終赤字に。 1



加工食品と水産が減収減益、畜産は堅調

セグメント別売上高と営業利益(その1)



1.加工食品

全体では1%の減収。冷凍食品は商品回収や鳥インフルエンザの影響を受けたものの、家庭用調理冷食の販売が好調。一方で冷凍野菜は売上回復が遅れる。03/3に大きく伸びたアセロラは冷夏の影響もあり売上が減少した。利益面ではブランド費用や原料チキンの高騰に加え、商品回収損失の影響もあり減益となった。

2.水産

たこが漁獲不振、かには高値が続き取扱数量が共に大幅減少。えびなどその他の魚種は一般的に市況が軟調、売上高は03/3比15%減、固定費をカバーできず営業赤字に。

3.畜産

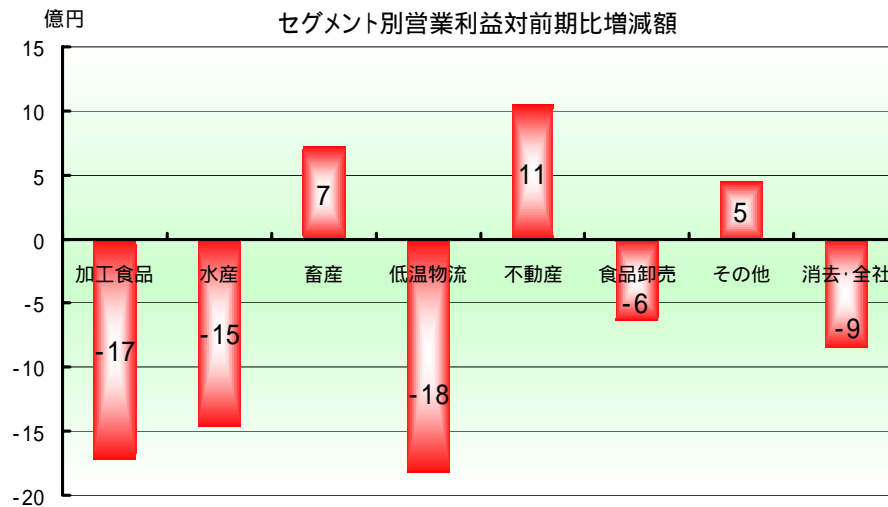
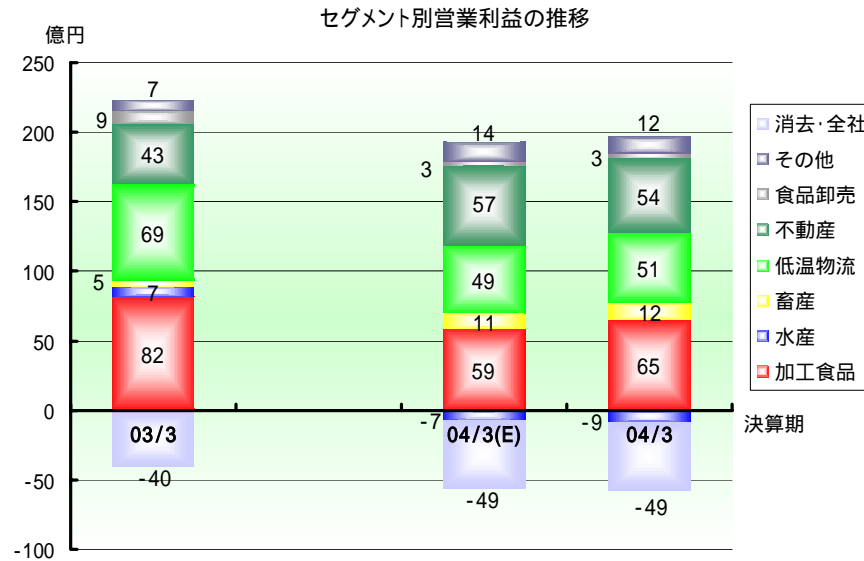
鳥インフルエンザの中国とタイでの発生による輸入停止など市場環境が激変する中、鶏肉は調達面での差別化を図っている「こだわり素材」が市場に受け入れられ好調に推移、需要が回復した牛肉は売上の回復に寄与。

(以下、グラフの金額単位表示未満は四捨五入し一部で端数調整のため切り上げ・切り捨てを行っている)



低温物流は減益の一方、不動産は増収増益

セグメント別売上高と営業利益(その2)



4. 低温物流

保管型は畜産物や水産物など輸入食料品の搬入量減少が影響し減収減益、流通型と海外は堅調だが保管型を補いきれず、全体でも減益となった。

5. 不動産

03 / 3 期中に賃貸を開始したニチレイ天満橋ビルなどが通年で収益に寄与したことに加え、茨城県牛久市などでの宅地分譲や仙台市などの土地売却があり、増収増益に。

6. 食品卸売

ユキワは03 / 10 にリョーショクフードサービスと合併、新会社のオールワイフードサービスは連結対象から外れ、下期は売上・利益ともなくなった。

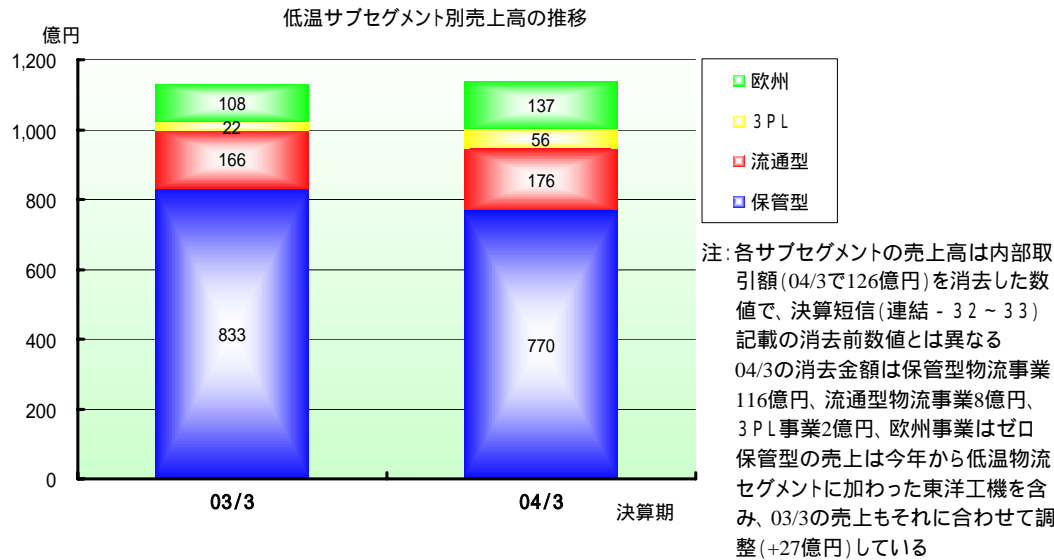
7. その他

03 / 3 に日本ばし大增を売却したことで減収となったが、てんぐは生産効率の向上で増益、バイオサイエンスも産業用培地や機能性素材の販売が好調で増益に寄与。



低温物流は保管型の稼働率が低下して減益

低温物流事業の対前期比増減の要因



1. 保管型

輸入水産物の搬入減少に加え、BSEや鳥インフルエンザによる輸入畜産物の搬入減少もあって厳しい事業環境が続く。地方の冷蔵倉庫では貨物の東京集中による空洞化が進展した。全体では03/3比減収減益。

保管賃単価は引き続き横ばいで推移。

2. 流通型

大手GMS向けの3拠点(仙台・静岡・四国)は採算が改善中。

上記以外の既存拠点は商品の低価格化が影響して売上高が伸び悩みに。

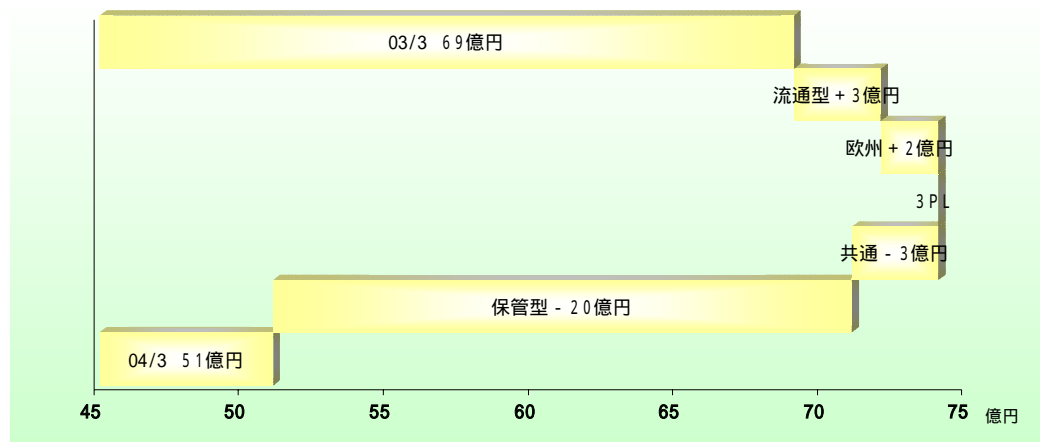
3. 3PL

ニチレイ加工食品の物流再編がスタートし増収。

4. 欧州

オランダの冷蔵倉庫2拠点で増設棟が稼働を開始、関税の税率変更に伴うチキンの一時的保管需要や新規得意先の獲得もあり前期比増収増益に。

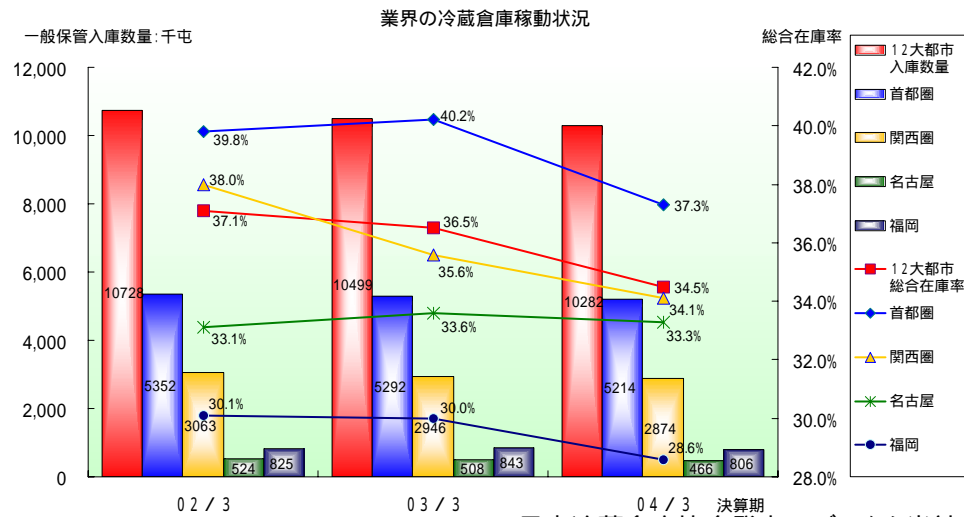
低温物流事業営業利益の対前期比増減要因



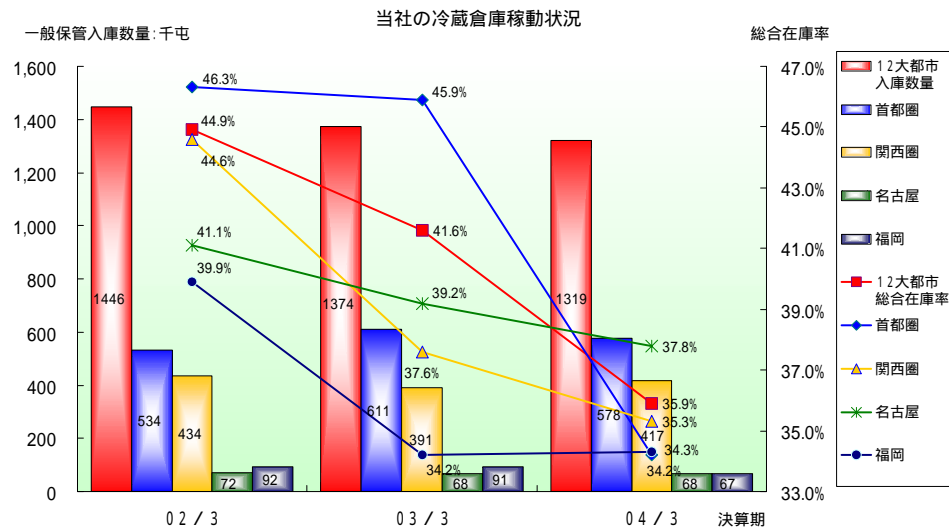


輸入食料品搬入減により在庫量と在庫率が低下

冷蔵倉庫の稼働状況



(日本冷蔵倉庫協会発表のデータを当社で加工)



1. 業界の状況

輸入水産物の搬入量減少などにより在庫量が減少、在庫率も各地区で低下している。

2. 当社の状況

在庫量と在庫率が共に低下している。取扱を増やしている冷凍食品は回転が早く収容効率が低いため、在庫率向上に貢献しにくい。

3. 業界の設備能力

大手業者の能力は概ね横ばい。

冷蔵倉庫業界収容容積国内シェア

(2004年1月1日現在)

社名・グループ名	拠点数	能力 (万トン)	03/1比 増減	能力シェア	主たる営業地域
ニチレイグループ	102	137	-1	12%	全国
マルハグループ	62	71	0	6%	全国
横浜冷凍	35	54	1	5%	全国
東洋水産グループ	23	41	2	4%	全国
日本水産グループ	25	35	0	3%	全国
五十嵐冷蔵	8	19	0	2%	関東
松岡	6	16	0	1%	関東、関西、中国
宝船冷蔵	4	11	0	1%	関西
兵食	7	11	0	1%	関西
キューソー流通システム	22	11	1	1%	全国
ヒューテックノオリン	8	11	0	1%	全国
中央冷凍	8	9	0	1%	関東
川西倉庫	6	9	0	1%	関東、関西
東京豊海冷蔵	5	9	0	1%	関東
山手冷蔵	6	9	0	1%	関東、中部
港湾冷蔵	6	8	0	1%	関東、関西、九州
二葉	4	8	0	1%	関東
その他	1,375	634	2	58%	
合計	1,708	1,097	6	100%	

(日本冷蔵倉庫協会発表のデータを当社で加工)



調理冷食は「お弁当にGood!」中心に家庭用が好調

ニチレイ(単体)の冷凍食品売上高

1. 冷凍食品全般

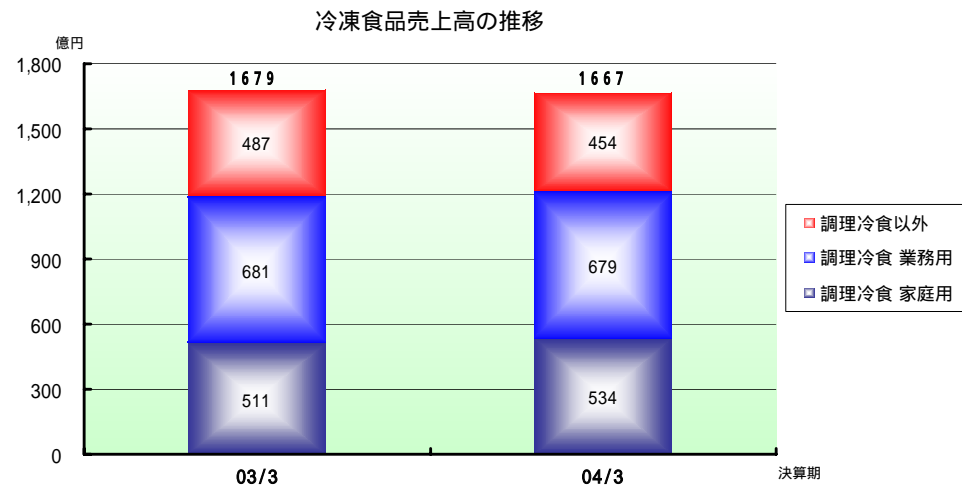
03 / 3比1%の減収、調理冷食は家庭用・業務用を合わせると2%の増収。冷凍野菜は中国産冷凍ほうれん草の販売自粛継続もあって市場規模の回復が遅れ当社も減収となった。

2. 調理冷食

家庭用: 03 / 3比5%の増収。お弁当向け商品を統合した「お弁当にGood!」シリーズは着色料・保存料・化学調味料不使用をコンセプトに展開、売上は好調に推移したが下期に原料パン粉銅線混入による商品回収を4品で実施、03 / 3比10.9%の結果となった。上等シリーズは取扱店舗の拡大や年末ギフト市場での取扱の伸びで03 / 3比14.2%と引き続き好調。

業務用: 売上は03 / 3比横ばい。OSI社とのアライアンスにより発売を開始した「グレービーハンバーグ」が好調な一方、チキン加工品は鳥インフルエンザによる輸入停止措置の影響を受けて減収。

カテゴリー別には「グレービーハンバーグ」を投入した食肉加工品が好調、チキン加工品と水産調理品は業務用商品が振るわず減収に。



注: 畜産品の中で、日本冷凍食品協会による冷凍食品の定義に合致する商品1.9億円を新たに「調理冷食以外」の冷凍食品に含め、前年の数値もそれに合わせて調整(2.3億円増)している。

また、調理冷食業務用の一部を今年から「調理冷食以外」に分類変更しており、前年の数値もそれに合わせて調整(1.4億円)している。



京都ホテル向け賃貸資産の売却でスリムなB / Sに

04 / 3期連結バランスシートの変動要因

単位: 億円(未満切り捨て)

科目	03/3	04/3	増減
(資産の部)			
流動資産	1,165	1,081	-83
固定資産	2,142	1,765	-376
資産の部合計	3,307	2,847	-460
(負債・資本の部)			
流動負債	1,194	1,019	-174
固定負債	1,195	920	-274
負債の部合計	2,389	1,940	-449
少数株主持分	11	5	-5
資本の部	906	901	-4
(有利子負債)	1,453	1,243	-210
科目	03/3	04/3	増減
(設備投資額)	76	51	-24
(減価償却実施額)	127	119	-8

【主な要因】

売上債権が123億円、棚卸資産が26億円減少、いずれもユキワの連結除外が主な理由。一方で関係会社整理損に伴い繰延税金資産が60億円増加。

日冷商事が保有していた京都ホテルに賃貸する土地・建物の売却による234億円減に加え、設備投資の抑制が有形固定資産を減少させる要因となった。

仕入債務が168億円減少、主にユキワの連結除外によるもの。固定負債では社債と長期借入金で計200億円減少した他、預り保証金が64億円減少。

フリーキャッシュフローを有利子負債返済に充てたほか、京都ホテルに賃貸する土地・建物の売却もあり、期末残高目標1,350億円を大幅に下回った。

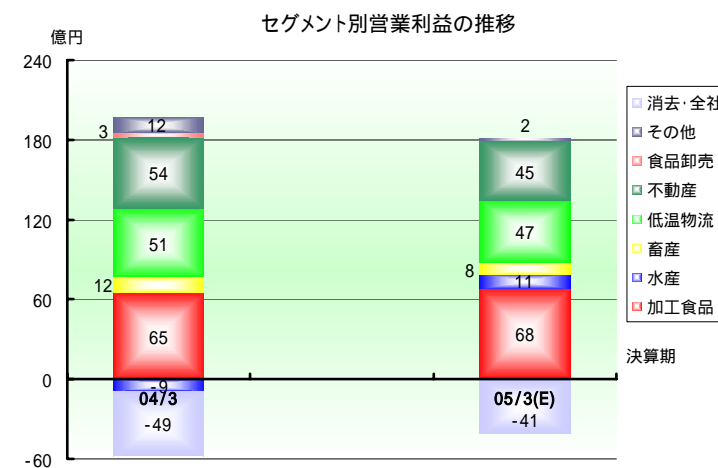
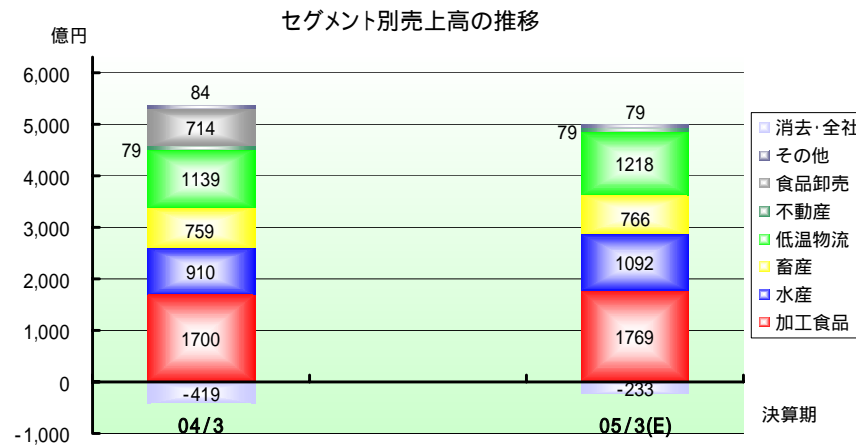
04 / 3の設備投資の主なもの:
 船橋・大阪埠頭・鳥栖物流サービスセンター
 (いずれも荷捌き室の低温化増強工事)
 川崎ファズ物流サービスセンター
 (増床に伴う設備工事)
 オランダの冷蔵倉庫増設



新中期経営計画初年度は実質増収増益に

2005年3月期の連結業績見込み

単位:金額 = 億円(未満切捨て)	04/3	05/3(E)	04/3(E)対03/3比較	
			増減額	増減率
売上高	4,966	4,770	-196	-3.9%
営業利益	139	140	0	0.2%
経常利益	120	139	18	14.9%
当期純利益(損失)	-18	50	68	-



1. 売上高はユキワ他1社の連結除外影響549億円減を考慮すると実質的には増収。
2. 鳥インフルエンザとBSEの影響が加工食品・低温物流・その他(てんぐ)で見込まれ、営業利益は04/3並に。
3. 加工食品は、業務用調理冷凍食品を中心に売上高の伸長による利益拡大を図る。
4. 水産は、最終消費者により近いユーザへ付加価値の高い加工品を販売する比率を高め、営業利益を黒字に戻す。
5. 低温物流は、国内の事業領域を成長領域の物流ネットワーク事業と成熟領域の地域保管事業に分け、再編後の8組織の安定化を図り、地域保管事業の収益低下に歯止めをかける。



営業外収支と特別損益は前期比好転へ

単位: 億円、単位未満切り捨て プラス表示は利益を示す		04 / 3対03 / 3比較			05 / 3E対04 / 3比較				
		04 / 3	03 / 3	増 減	05 / 3E	04 / 3	増 減		
【営業外収支】 (主要項目)		- 18	- 19	+ 1	【営業外収支】 (主要項目)		- 1	- 18	+ 17
金融収支		- 17	- 20	+ 2	金融収支		- 15	- 17	+ 2
持分法投資損益		+ 1	+ 2	- 0	持分法投資損益		+ 10	+ 1	+ 8
【特別損益】 (主要項目)		- 159	- 69	- 90	【特別損益】 (主要項目)		- 56	- 159	+ 103
投資有価証券売却益		+ 18	+ 1	+ 16					
固定資産売却損		- 150	- 0	- 149					
投資有価証券評価損		- 2	- 34	- 31					
投資有価証券売却損		-	- 24	+ 24					
事業所閉鎖損失		- 12	- 7	- 5					
貸倒引当金繰入額		- 5	-	- 5					

持分法投資損益の増減の主な内訳

04 / 3: パシフィックバイオロジックス(抗体医薬の治験薬製造)とスラポンニチレイ食品(冷凍食品)が03 / 3比それぞれ1億円の減、オールワイフードサービスが新規でプラス1億円

05 / 3E: パシフィックバイオロジックスが持分法適用会社から除外されプラス3億円、京都ホテルの業績改善でプラス2億円、オールワイフードサービスの通期貢献でプラス2億円

保有資産の見直し圧縮に伴う売却

日冷商事が保有していた京都ホテルオークラの土地・建物の売却に伴う損失が主なもの

加工食品の生産子会社マンヨー食品の解散と、低温物流の川崎市場物流サービスセンター廃止が主なもの

民事再生法を申請した藤三商会に対する売上債権の引当が主なもの

05 / 3に発生が見込まれる主なものは

- 低温物流事業の分社化に伴い従業員が転籍することによる割増退職金、株式売却損・評価損、固定資産売却・除却損



京都ホテルは大きく改善し投資リスクも限定的に

1. 子会社の日冷商事が所有していた、京都ホテルに賃貸中の土地・建物を04/3に売却、売却損として144億円を計上した
2. 本措置を決断した背景は
 - 昨年、京都ホテルから賃料減額要請を受けていたこと、外部コンサルタントを使用した分析でも、京都ホテルの経営状況を改善するには、これまでの再建策で既に自助努力の限界を超えており設備費の切り下げが不可欠であると認識されたこと
 - 土地・建物の価値下落が著しく減損会計の導入をにらみ対策が必要であった
 - 第三者に売却することで、京都ホテルの賃料減額が実施されることが、京都ホテルの破綻を避け当社の損失を最小限にするとともに、資産保有による今後の価額変動リスクを回避し、コア事業への経営資源集中に繋がる最善策と判断した
3. 今後は営業収支が大きく改善することで漸次有利子負債の圧縮が進むと考えている

3月30日に発表された京都ホテルの再建計画 単位:億円

	平成15/12期 (実績)	平成16/12期 (計画)	平成17/12期 (計画)	平成18/12期 (計画)
営業収益	102	104	105	105
(GOP利益)	28	29	29	30
(GOP利益率)	27.8%	28.0%	28.1%	28.1%
営業利益	0	4	5	5
経常利益	1	4	4	5
当期純利益	1	4	4	3
資本勘定	5			
有利子負債	37			
ニチレイ債務保証	35			

注: GOP利益
 売上高資本費控除前営業利益
 GOP率28%はホテル業界トップ
 クラスの水準といわれている



データ集

セグメント別売上高・営業利益の実績・見込

単位: 億円(単位未満四捨五入、一部で端数調整あり)

	03 / 3	04 / 3 (E)	04 / 3	05 / 3 (E)
(売上高)				
加工食品	1,715	1,688	1,700	1,769
水産	1,068	980	910	1,092
畜産	736	739	759	766
低温物流	1,129	1,152	1,139	1,218
不動産	66	83	79	79
食品卸売	1,410	714	714	-
その他	100	83	84	79
全社または消去	-590	-422	-419	-233
合計	5,634	5,017	4,966	4,770
(営業利益)				
加工食品	82	59	65	68
水産	7	-7	-9	11
畜産	5	11	12	8
低温物流	69	49	51	47
不動産	43	57	54	45
食品卸売	9	3	3	-
その他	7	14	12	2
全社または消去	-40	-49	-49	-41
合計	183	137	139	140

04 / 3 (E) は2月3日に発表したもの



当資料取扱い上のご注意

当資料に記されたニチレイの現在の計画、見通し、戦略等のうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に対する見通しであります。将来の業績に関する見通しは、将来の営業活動や業績に関する説明における「期待」、「計画」、「戦略」、「見込み」、「予測」、「予想」その他これらの類義語を用いたものに限定されるものではありません。これらの情報は、現在において入手可能な情報から得られたニチレイの経営者の判断に基づいております。このため、これらの業績見通しのみで全面的に依拠して投資判断されることは控えるようお願いいたします。また、新たな情報、将来の事象、その他の判断に基づき、常にニチレイが将来の見直しを見直すとは限りません。実際の業績に影響を与え得るリスクや不確実な要素には、以下のものが含まれます。

ニチレイグループの事業活動を取り巻く個人消費動向を中心とした経済情勢
および業界環境
米ドル・ユーロを中心とした為替レートの変動
成長戦略とローコスト構造の実現性
有利子負債削減の実現性
偶発事象の結果 等

ただし、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。また、リスクや不確実な要素には、将来の出来事から発生する重要かつ予測不可能な影響も含まれます。当資料は、あくまでニチレイをより深く理解していただくためのものであり、必ずしも投資をお勧めするためのものではありません。